

参考資料 1

白川・緑川水防災意識社会再構築協議会取組工程表

【白川・緑川水防災意識社会再構築協議会】熊本市・減災に係る取組工程表全体スケジュール			現時点												平成31年2月8日更新									
作業項目			8月		12月		4月		8月		12月		4月		8月		12月		33年度		備考			
			29年度		30年度		31年度		32年度		33年度		34年度		35年度		36年度							
幹事会 (○)																								
協議会 (◎)																							・赤字: 取組内容の中で特に留意が必要な項目	
ソフト対策	・白川の大規模氾濫に対し、関係機関が連携し、社会経済・人命への被害を最小化するための施設整備や緊急排水計画の策定及び、地域コミュニティの活性化による避難体制の構築																							
	・緑川の大規模氾濫に対し、関係機関が連携し、社会経済・人命への被害を最小化するための施設整備や緊急排水計画の策定及び、地域コミュニティの活性化による避難体制の構築と市町境を越えた広域避難体制の構築																							
	1-①避難勧告等の発令に着手した水害対応タイムラインの検証・見直しや水害対応タイムラインに基づく、訓練の実施																							
	実水害や水防避難訓練を踏まえた水害対応タイムラインの検証・見直し	○	○																			(継続的に実施)	・毎年タイムラインの検証と勉強会を行い、随時見直し。	
	水害対応タイムラインに基づく、関係機関が連携した水防避難訓練等の実施	○	○																				・毎年回上訓練を「市単独」、「広域・防災関係機関合同」で行う。	
	防災担当職員の防災スキル向上に向けた研修や訓練の実施	○	○																				・事前に、現状の課題を把握する。	
	1-②想定し得る最大規模の洪水を踏まえたハザードマップや水防避難マニュアル(仮)の改善・検討及び周知・徹底																							
	想定し得る最大規模の降雨による浸水想定区域図に対応したハザードマップの作成	◎	◎																				・河川の危険箇所を把握するためにも、市域のみのハザードマップではなく、河川全体での対応を検討する。	
	(広域避難を考慮した)水防避難マニュアル(仮)の検討・作成	◎	◎																				・L2が公表されている他都市の情報を収集しながら、マニュアルの検討を行い指定都市市長会や九州市長会で意見聴取し、広域避難で隣接する市町とも協議しながら作成する。	
	ハザードマップの普及・啓発	○	○																				・広域に渡るL2での浸水想定であるので、啓発する際には「映像」で浸水被害を見せるような取組みが必要となると思われる。	
	地域版ハザードマップの普及・啓発	○	○																				・L2での浸水想定では避難できる場所に限られることから、十分な説明を行い理解してもらうことが課題となる。	
	水防避難マニュアル(仮)の普及・啓発	○	○																				・L2が公表されている他都市の情報を収集しながら、マニュアルの検討を行い指定都市市長会や九州市長会で意見聴取し、広域避難で隣接する市町とも協議しながら作成する。	
	想定し得る最大規模の降雨による浸水想定区域内での避難所の検討・指定	◎	◎																				・平成32年(2020年)の防災会議で指定し、地域防災計画にL2対応の避難所を指定する。	
	1-③水防団(消防団)や住民団体等と連携した実効性の高い水防訓練の実施及び水防体制の強化																							
	水防団、自主防災組織、消防署等の関係機関が連携した水防訓練の実施	○	○																				(継続的に実施)	・訓練内容を検討し、実際に訓練を行い課題の洗い出しで内容の見直しを繰り返すこと。
	自主防災組織、地域住民が参加する洪水に対するリスクが高い区間の共同点検の実施	○	○																				(継続的に実施)	・洪水リスクが高い区間に居住する住民向け勉強会
	水防団、河川管理者による水防資機材の情報共有	○	○																				(継続的に実施)	・共同点検箇所を随時見直す
	水防団の人材不足の解消、水防協力団体の募集・指定の促進等の検討・実施	○	○																				(継続的に実施)	・出水前に実施
	1-④大規模出水時における緊急排水計画の策定及び緊急排水に向けた整備・訓練の実施																							
	排水施設の情報共有、排水手法等の検討	○	○																					
緊急排水計画の策定	○	○																						
大規模出水時を想定した緊急排水訓練の実施	○	○																						
1-⑤大規模災害を想定した広域的な連携体制の強化																								
自治体の防災担当者間の連携促進	○	○																						
1-⑥まちづくりと一体となった水害リスクを低減させる出水前後の対策の検討																								
大規模出水時における緊急防災道路等の検討・認定	○	○																						
早期の社会機能回復に向けた民間企業BCP計画検討の支援	○	○																						
地下街(地下空間)の避難確保計画の作成・避難訓練の実施・支援	○	○																						
要配慮者利用施設の避難確保計画の作成・避難訓練の実施・支援	○	○																						
大規模氾濫時に防災拠点となる各市町庁舎の機能維持及び機能向上の検討・実施	○	○																						
避難拠点となる学校等の機能維持及び機能向上の検討・実施	○	○																						
・白川への関心を高めるとともに、白川特有の水害リスクを認識し、地域住民の主体的な避難活動や、地域防災力向上に資する水防災教育や啓発活動の推進																								
・緑川の過去の水害や治水の歴史・教訓を継承するとともに、緑川の水害リスクを認識し、地域住民の主体的な避難活動や、地域防災力向上に資する水防災教育や啓発活動の推進																								
2-①水害の歴史や文化の記憶を風化させないための学習機会や出前講座等の拡充																								
小中学校等と連携を図り、白川・緑川についての学習や出前講座等の実施・拡充	○	○																						
緑川の水害の歴史や文化への理解を深めるための啓発活動の実施・拡充	○	○																						
白川に対する愛着や理解を深めるための啓発活動の実施・拡充	○	○																						
2-②洪水リスク・防災意識の啓発・教育																								
白川学習・水防災教育、川の安全な体験学習の「場」として白川地域防災センター(白川わくわくランド)の利活用の促進	○	○																						
教育委員会等と連携を図り、小中学校における白川や緑川についての学習・水防災教育等の実施	◎	◎																						
市民向けの白川・緑川についての学習・水防災教育(市民講座、地域防災リーダー講座等)の実施	○	○																						
住民団体・NPO等と連携した川の安全な体験活動の普及	○	○																						
防災ステーションを活用した水防災教育等の実施	○	○																						
・水位が上昇しやすい熊本市街部において、地域住民や災害時要配慮者の迅速な避難行動、企業の的確な防災活動につながる、正確でわかりやすい防災情報の発信																								
・特徴の異なる複数の河川が流れる緑川流域において、地域住民や災害時要配慮者の迅速な避難行動につながる、正確でわかりやすい防災情報の発信																								
3-①関係機関との確実な情報共有のための緊急連絡体制の確認・強化																								
水害対応タイムライン、水害対応チェックリストの活用等の推進	○	○																						
毎年、出水期前にホットラインの訓練等の実施	○	○																						
市町長だけでなく、副市町長、防災担当部長等とのホットラインの確立	○	○																						
3-②誰にでもわかりやすく、正確かつ迅速な情報提供の発信の強化																								
多様な情報提供媒体(SNS等)を活用した、幅広い年代の方々が確実に情報を入手できる手段の検討・実施	○	○																						
携帯端末を活用したプッシュ型情報等の普及・周知	○	○																						
地域の防災に関する情報の広報紙、ホームページ、大型ビジョン、庁舎掲示板、観光案内所等への掲載促進	○	○																						
関係機関が提供する防災情報を一元的に集約した情報ツールの検討・整備	◎	◎																						
報道機関を通じた避難情報等において確実な住民の行動を促すための情報提供の方法の検討・実施	○	○																						
3-③水防団等への連絡体制の再確認と伝達訓練の実施																								
毎年、出水期前に水防団等の関係機関との連絡体制の確認	○	○																						
毎年、出水期前に大規模な浸水の発生を前提とした演習の実施	○	○																						
出水時の河川巡視情報等の共有	○	○																						
関係機関が連携し、洪水氾濫時に社会経済・人命への被害を最小化するための施設の整備																								
3-③大雨時の危険性の判断や避難活動に役立つ看板の設置																								
過去の浸水実績を示した標識や危険性を訴える標識等の設置	○	○																						
3-④住民へ確実に情報を伝えるための防災行政無線の調整・拡充																								
防災行政無線の情報伝達状況の検証及び新設・増設等の検討	○	○																						
3-⑤迅速かつ確実な水防活動を支援するための水防資機材の備蓄計画の策定																								
備蓄している水防資機材等について現状を確認し、大規模氾濫時を想定した必要な資機材の量や備蓄計画の策定	○	○																						
ハード対策																								
3-③大雨時の危険性の判断や避難活動に役立つ看板の設置																								
過去の浸水実績を示した標識や危険性を訴える標識等の設置	○	○																						
3-④住民へ確実に情報を伝えるための防災行政無線の調整・拡充																								
防災行政無線の情報伝達状況の検証及び新設・増設等の検討	○	○																						
3-⑤迅速かつ確実な水防活動を支援するための水防資機材の備蓄計画の策定																								
備蓄している水防資機材等について現状を確認し、大規模氾濫時を想定した必要な資機材の量や備蓄計画の策定	○	○																						

【白川・緑川水防災意識社会再構築協議会】宇土市・減災に係る取組工程表全体スケジュール		現時点												平成30年2月6日時点		
作業項目		白川	緑川	29年度		30年度		31年度		32年度		33年度		備考		
幹事会 (○)				○	○	○	○									
協議会 (◎)					◎			◎						・赤字: 取組内容の中で特に留意が必要な項目		
ソフト対策	・白川の大規模氾濫に対し、関係機関が連携し、社会経済・人命への被害を最小化するための施設整備や緊急排水計画の策定及び、地域コミュニティの活性化による避難体制の構築															
	・緑川の大規模氾濫に対し、関係機関が連携し、社会経済・人命への被害を最小化するための施設整備や緊急排水計画の策定及び、地域コミュニティの活性化による避難体制の構築と市町境を越えた広域避難体制の構築															
	1-①避難勧告等の発令に着手した水害対応タイムラインの検証・見直しや水害対応タイムラインに基づく、訓練の実施															
	実水害や水防避難訓練を踏まえた水害対応タイムラインの検証・見直し	○												(継続的に実施)		
	水害対応タイムラインに基づく、関係機関が連携した水防避難訓練等の実施	○														
	防災担当職員の防災スキル向上に向けた研修や訓練の実施	○														
	1-②想定し得る最大規模の洪水を踏まえたハザードマップや水防避難マニュアル(仮)の改善・検討及び周知・徹底															
	想定し得る最大規模の降雨による浸水想定区域図に対応したハザードマップの作成	◎													・ハザードマップ作成はH30年度に作成予定。	
	(広域避難を考慮した)水防避難マニュアル(仮)の検討・作成	◎														
	ハザードマップの普及・啓発															
	地域版ハザードマップの普及・啓発															
	水防避難マニュアル(仮)の普及・啓発															
	想定し得る最大規模の降雨による浸水想定区域内での避難所の検討・指定	◎													・防災計画の変更時に、避難所の検討・指定を合わせて行う。	
	1-③水防団(消防団)や住民団体等と連携した実効性の高い水防訓練の実施及び水防体制の強化															
	水防団、自主防災組織、消防署等の関係機関が連携した水防訓練の実施	○													(継続的に実施)	
	自主防災組織、地域住民が参加する洪水に対するリスクが高い区間の共同点検の実施	○													(継続的に実施)	
	水防団、河川管理者による水防資機材の情報共有	○													(継続的に実施)	
	水防団の人材不足の解消、水防協力団体の募集・指定の促進等の検討・実施	○													(継続的に実施)	
	1-④大規模出水時における緊急排水計画の策定及び緊急排水に向けた整備・訓練の実施															
	排水施設の情報共有、排水手法等の検討	○														・担当: 土木課
緊急排水計画の策定																
大規模出水時を想定した緊急排水訓練の実施	○														・担当: 土木課	
1-⑤大規模災害を想定した広域的な連携体制の強化																
自治体の防災担当者間の連携促進	○															
1-⑥まちづくりと一体となった水害リスクを低減させる出水前後の対策の検討																
大規模出水時における緊急防災道路等の検討・認定																
早期の社会機能回復に向けた民間企業BCP計画検討の支援																
地下街(地下空間)の避難確保計画の作成・避難訓練の実施・支援																
要配慮者利用施設の避難確保計画の作成・避難訓練の実施・支援																
大規模氾濫時に防災拠点となる各市町庁舎の機能維持及び機能向上の検討・実施	○														(継続的に実施) ・担当: 危機管理課、福祉課、高齢者支援課、教育委員会	
避難拠点となる学校等の機能維持及び機能向上の検討・実施	○															
・白川への関心を高めるとともに、白川特有の水害リスクを認識し、地域住民の主体的な避難活動や、地域防災力向上に資する水防教育や啓発活動の推進																
・緑川の過去の水害や治水の歴史・教訓を継承するとともに、緑川の水害リスクを認識し、地域住民の主体的な避難活動や、地域防災力向上に資する水防教育や啓発活動の推進																
2-①水害の歴史や文化の記憶を風化させないための学習機会や出前講座等の拡充																
小中学校等と連携を図り、白川・緑川についての学習や出前講座等の実施・拡充	○															
緑川の水害の歴史や文化への理解を深めるための啓発活動の実施・拡充	○															
白川に対する愛着や理解を深めるための啓発活動の実施・拡充	○															
2-②洪水リスク・防災意識の啓発・教育																
白川学習・水防教育、川の安全な体験学習の「場」として白川地域防災センター(白川わくわくランド)の利活用の促進																
教育委員会等と連携を図り、小中学校における白川や緑川についての学習・水防教育等の実施	◎														・教育委員会と調整中	
市民向けの白川・緑川についての学習・水防教育(市民講座、地域防災リーダー講座等)の実施	○														・緑川に限った水防に関する学習・教育は未定	
住民団体・NPO等と連携した川の安全な体験活動の普及	○															
防災ステーションを活用した水防教育等の実施	○															
・水位が上昇しやすい熊本市街部において、地域住民や災害時要配慮者の迅速な避難行動、企業の的確な防災活動につながる、正確でわかりやすい防災情報の発信																
・特徴の異なる複数の河川が流れる緑川流域において、地域住民や災害時要配慮者の迅速な避難行動につながる、正確でわかりやすい防災情報の発信																
3-①関係機関との確実な情報共有のための緊急連絡体制の確認・強化																
水害対応タイムライン、水害対応チェックリストの活用推進	○														(継続的に実施)	
毎年、出水期前にホットラインの訓練等の実施	○														(継続的に実施)	
市町長だけでなく、副市町長、防災担当部長等とのホットラインの確立	○														(継続的に実施)	
3-②誰にでもわかりやすく、正確かつ迅速な情報提供の発信の強化																
多様な情報提供媒体(SNS等)を活用した、幅広い年代の方が確実に情報を入手できる手段の検討・実施	○															
携帯端末を活用したプッシュ型情報等の普及・周知	○														(配信箇所は順次拡大予定)	
地域の防災に関する情報の広報誌、ホームページ、大型ビジョン、庁舎掲示板、観光案内所等への掲載促進	○															
関係機関が提供する防災情報を一元的に集約した情報ツールの検討・整備	◎															
報道機関を通じた避難情報等において確実な住民の行動を促すための情報提供の方法の検討・実施	○															
3-③水防団等への連絡体制の再確認と伝達訓練の実施																
毎年、出水期前に水防団等の関係機関との連絡体制の確認	○														(継続的に実施)	
毎年、出水期前に大規模な浸水の発生を前提とした演習の実施	○														(継続的に実施)	
出水時の河川巡視情報等の共有	○														(継続的に実施)	
関係機関が連携し、洪水氾濫時に社会経済・人命への被害を最小化するための施設の整備																
3-③大雨時の危険性の判断や避難活動に役立つ看板の設置																
過去の浸水実績を示した標識や危険性を訴える標識等の設置	○															・ハザードマップ作成の準備はH29から、 ・国が行う浸水想定区域の策定後に、ハザードマップの作成に取り掛かる。
3-④住民へ確実に情報を伝えるための防災行政無線の調整・拡充																
防災行政無線の情報伝達状況の検証及び新設・増設等の検討	○															平成28年度に、防災行政無線のデジタル化工事が終了。来年度以降は、実際に運用を行いつつ調整を行う。
3-⑤迅速かつ的確な水防活動を支援するための水防資機材の備蓄計画の策定																
備蓄している水防資機材等について現状を確認し、大規模氾濫時を想定した必要な資機材の量や備蓄計画の策定	○															現状の確認と情報の整理 市内における浸水想定区域への対応を踏まえ、備蓄計画の作成・随時見直し (継続的に実施)

【白川・緑川水防災意識社会再構築協議会】宇城市・減災に係る取組工程表全体スケジュール		現時点												目標達成期限		平成31年2月8日更新	
作業項目		白川	緑川	8月	12月	4月	8月	12月	4月	8月	12月	4月	8月	12月	33年度	備考	
幹事会 (○)				○			○	○	○								
協議会 (◎)					◎				◎							・赤字: 取組内容の中で特に留意が必要な項目	
ソフト対策	・白川の大規模氾濫に対し、関係機関が連携し、社会経済・人命への被害を最小化するための施設整備や緊急排水計画の策定及び、地域コミュニティの活性化による避難体制の構築																
	・緑川の大規模氾濫に対し、関係機関が連携し、社会経済・人命への被害を最小化するための施設整備や緊急排水計画の策定及び、地域コミュニティの活性化による避難体制の構築と市町境を越えた広域避難体制の構築																
	1-①避難勧告等の発令に着手した水害対応タイムラインの検証・見直しや水害対応タイムラインに基づく、訓練の実施																
	実水害や水防避難訓練を踏まえた水害対応タイムラインの検証・見直し	○														(継続的に実施)	
	水害対応タイムラインに基づく、関係機関が連携した水防避難訓練等の実施	○														水防避難訓練の実施(情報伝達訓練(8月)、総合防災訓練等を活用)	
	防災担当職員の防災スキル向上に向けた研修や訓練の実施	○														水防教育を活用した研修、訓練の実施	
	1-②想定し得る最大規模の洪水を踏まえたハザードマップや水防避難マニュアル(仮)の改善・検討及び周知・徹底																
	想定し得る最大規模の降雨による浸水想定区域図に対応したハザードマップの作成	◎														L2対応のハザードマップの作成	
	(広域避難を考慮した)水防避難マニュアル(仮)の検討・作成	◎														広域避難を考慮した水防避難マニュアルの検討・作成	
	ハザードマップの普及・啓発															L2対応のハザードマップの普及・啓発	
	地域版ハザードマップの普及・啓発															地域版ハザードマップの作成	
	水防避難マニュアル(仮)の普及・啓発															広域避難マニュアルの普及・啓発	
	想定し得る最大規模の降雨による浸水想定区域内での避難所の検討・指定	◎														L2対応の避難所検討、L2対応の避難所指定	
	1-③水防団(消防団)や住民団体等と連携した実効性の高い水防訓練の実施及び水防体制の強化																
	水防団、自主防災組織、消防署等の関係機関が連携した水防訓練の実施	○														(継続的に実施)	
	自主防災組織、地域住民が参加する洪水に対するリスクが高い区間の共同点検の実施	○														(継続的に実施)	
	水防団、河川管理者による水防資機材の情報共有	○														(継続的に実施)	
	水防団の人材不足の解消、水防協力団体の募集・指定の促進等の検討・実施	○														(継続的に実施)	
	1-④大規模出水時における緊急排水計画の策定及び緊急排水に向けた整備・訓練の実施																
	排水施設の情報共有、排水手法等の検討	○														排水施設の情報共有、手法の検討	
緊急排水計画の策定															緊急排水計画を踏まえた課題に対する検討		
大規模出水時を想定した緊急排水訓練の実施	○														緊急排水訓練の実施		
1-⑤大規模災害を想定した広域的な連携体制の強化																	
自治体の防災担当者間の連携促進	○														各種委嘱を活用した連携強化		
1-⑥まちづくりと一体となった水害リスクを低減させる出水前後の対策の検討																	
大規模出水時における緊急防災道路等の検討・認定															緊急防災道路等の検討		
早期の社会機能回復に向けた民間企業BCP計画検討の支援															緊急防災道路の認定(確認)		
地下街(地下空間)の避難確保計画の作成・避難訓練の実施・支援															(継続的に実施)		
要配慮者利用施設の避難確保計画の作成・避難訓練の実施・支援															(継続的に実施)		
大規模氾濫時に防災拠点となる各市町村庁舎の機能維持及び機能向上の検討・実施	○														防災拠点施設としての機能向上の検討・実施		
避難拠点となる学校等の機能維持及び機能向上の検討・実施	○														避難所となる小学校等の機能向上の検討・実施		
・白川への関心を高めるとともに、白川特有の水害リスクを認識し、地域住民の主体的な避難活動や、地域防災力向上に資する水防教育や啓発活動の推進																	
・緑川の過去の水害や治水の歴史・教訓を継承するとともに、緑川の水害リスクを認識し、地域住民の主体的な避難活動や、地域防災力向上に資する水防教育や啓発活動の推進																	
2-①水害の歴史や文化の記憶を風化させないための学習機会や出前講座等の拡充																	
小中学校等と連携を図り、白川・緑川についての学習や出前講座等の実施・拡充	○														出前講座の実施・拡充		
緑川の水害の歴史や文化への理解を深めるための啓発活動の実施・拡充	○														啓発活動の実施・拡充		
白川に対する愛着や理解を深めるための啓発活動の実施・拡充															・水防炎シンポジウム、川下り等で体験会		
2-②洪水リスク・防災意識の啓発・教育																	
白川学習・水防教育、川の安全な体験学習の「場」として白川地域防災センター(白川わくわくランド)の利活用の促進															(継続的に実施)		
教育委員会等と連携を図り、小中学校における白川や緑川についての学習・水防教育等の実施	◎														教育委員会等と連携		
市民向けの白川・緑川についての学習・水防教育(市民講座、地域防災リーダー講座等)の実施	○														学習・水防教育の実施		
住民団体・NPO等と連携した川の安全な体験活動の普及	○														体験活動の推進と普及に向けた広域の実施		
防災ステーションを活用した水防教育等の実施	○														防災ステーション設置検討、随時、流域自治体に拡大		
・水位が上昇しやすい熊本市街部において、地域住民や災害時要配慮者の迅速な避難行動、企業の的確な防災活動につながる、正確でわかりやすい防災情報の発信																	
・特徴の異なる複数の河川が流れる緑川流域において、地域住民や災害時要配慮者の迅速な避難行動につながる、正確でわかりやすい防災情報の発信																	
3-①関係機関との確実な情報共有のための緊急連絡体制の確認・強化																	
水害対応タイムライン、水害対応チェックリストの活用等の推進	○														検討・随時見直し		
毎年、出水期前にホットラインの訓練等の実施	○														洪水対応演習を活用した訓練等の実施		
市町長だけでなく、副市町長、防災担当部長等とのホットラインの確立	○														継続実施(首長補佐、課長、担当等)		
3-②誰にでもわかりやすく、正確かつ迅速な情報提供の発信の強化																	
多様な情報提供媒体(SNS等)を活用した、幅広い年代の方が確実に情報を入手できる手段の検討・実施	○														情報伝達方法の検討・実施		
携帯端末を活用したプッシュ型情報等の普及・周知	○														(配信箇所は順次拡大予定)		
地域の防災に関する情報の広報紙、ホームページ、大型ビジョン、庁舎掲示板、観光案内所等への掲載促進	○														広報紙等へ防災情報の継続的な掲載		
関係機関が提供する防災情報を一元的に集約した情報ツールの検討・整備	◎														一元的に集約した情報ツールの検討・実施		
報道機関を通じた避難情報等において確実な住民の行動を促すための情報提供の方法の検討・実施	○														情報提供方法の検討・実施		
3-③水防団等への連絡体制の再確認と伝達訓練の実施																	
毎年、出水期前に水防団等の関係機関との連絡体制の確認	○														連絡体制の確認		
毎年、出水期前に大規模な浸水の発生を前提とした演習の実施	○														水防演習の実施		
出水時の河川巡視情報等の共有															一元化に集約した情報ツールを活用した情報共有の実施		
関係機関が連携し、洪水氾濫時に社会経済・人命への被害を最小化するための施設の整備																	
3-④大雨時の危険性の判断や避難活動に役立つ看板の設置																	
過去の浸水実績を示した標識や危険性を訴える標識等の設置	○														設置可能地域の抽出、設置、「まるごとまちごとハザードマップ」の実施		
3-④住民へ確実に情報を伝えるための防災行政無線の調整・拡充																	
防災行政無線の情報伝達状況の検証及び新設・増設等の検討	○														情報伝達状況の検証 検証を踏まえた新設・増設		
3-⑤迅速かつ的確な水防活動を支援するための水防資機材の備蓄計画の策定																	
備蓄している水防資機材等について現状を確認し、大規模氾濫時を想定した必要な資機材の量や備蓄計画の策定	○														備蓄状況の確認 備蓄計画の策定、必要資機材の整備		

【白川・緑川水防災意識社会再構築協議会】嘉島町・減災に係る取組工程表全体スケジュール		平成30年11月26日更新																			
作業項目		白川	緑川	8月	12月	4月	8月	12月	4月	8月	12月	4月	8月	12月	備考						
					29年度			30年度			31年度			32年度			33年度				
幹事会 (○)				○																	
協議会 (◎)																			・赤字: 取組内容の中で特に留意が必要な項目		
ソフト対策	・白川の大規模氾濫に対し、関係機関が連携し、社会経済・人命への被害を最小化するための施設整備や緊急排水計画の策定及び、地域コミュニティの活性化による避難体制の構築 ・緑川の大規模氾濫に対し、関係機関が連携し、社会経済・人命への被害を最小化するための施設整備や緊急排水計画の策定及び、地域コミュニティの活性化による避難体制の構築と市町境を越えた広域避難体制の構築																				
	1-①避難勧告等の発令に着手した水害対応タイムラインの検証・見直しや水害対応タイムラインに基づく、訓練の実施																				
	実水害や水防避難訓練を踏まえた水害対応タイムラインの検証・見直し	○																		(継続的に実施)	
	水害対応タイムラインに基づく、関係機関が連携した水防避難訓練等の実施	○																		・庁内協議の後、関係機関との協議が必要。 ・タイムラインの検証・見直しに伴い、関係各課、関係機関との勉強会を予定。	
	防災担当職員の防災スキル向上に向けた研修や訓練の実施	○																		・国や県などが実施する研修や訓練に参加することで対応。	
	1-②想定し得る最大規模の洪水を踏まえたハザードマップや水防避難マニュアル(仮)の改善・検討及び周知・徹底																				
	想定し得る最大規模の降雨による浸水想定区域図に対応したハザードマップの作成 (広域避難を考慮した)水防避難マニュアル(仮)の検討・作成	◎																			・平成31年度作成予定 ・水防避難マニュアル(仮)の検討予定
	ハザードマップの普及・啓発	◎																			・ハザードマップ、水防避難マニュアル(仮)を策定後、町民へ周知・徹底
	地域版ハザードマップの普及・啓発	◎																			・町域が狭いため各地域版のハザードマップなどの策定予定はなし。
	水防避難マニュアル(仮)の普及・啓発	◎																			
	想定し得る最大規模の降雨による浸水想定区域内での避難所の検討・指定	◎																			・町域のほとんどが浸水想定区域内にあるが、新規避難所の建設は困難。
	1-③水防団(消防団)や住民団体等と連携した実効性の高い水防訓練の実施及び水防体制の強化																				
	水防団、自主防災組織、消防署等の関係機関が連携した水防訓練の実施	○																			(継続的に実施)
	自主防災組織、地域住民が参加する洪水に対するリスクが高い区間の共同点検の実施	○																			・関係機関と連携し水防訓練への参加・実施
	水防団、河川管理者による水防資機材の情報共有	○																			(継続的に実施)
	水防団の人材不足の解消、水防協力団体の募集・指定の促進等の検討・実施	○																			・毎年、水防資機材を出水期前に確認・点検の実施
	1-④大規模出水時における緊急排水計画の策定及び緊急排水に向けた整備・訓練の実施																				
	排水施設の情報共有、排水手法等の検討	○																			
	緊急排水計画の策定	○																			・国、計画策定後要検討
	大規模出水時を想定した緊急排水訓練の実施	○																			・国、計画策定後要検討
1-⑤大規模災害を想定した広域的な連携体制の強化																					
自治体の防災担当者間の連携促進	○																				
1-⑥まちづくりと一体となった水害リスクを低減させる出水前後の対策の検討																					
大規模出水時における緊急防災道路等の検討・認定	○																				
早期の社会機能回復に向けた民間企業BCP計画検討の支援	○																			・企業向けのBCP研修会が必要と考える。	
地下街(地下空間)の避難確保計画の作成・避難訓練の実施・支援	○																			・町内に地下街などはなし。	
要配慮者利用施設の避難確保計画の作成・避難訓練の実施・支援	○																			(継続的に実施)	
大規模氾濫時に防災拠点となる各市町村庁舎の機能維持及び機能向上の検討・実施	○																			・必要に応じて実施	
避難拠点となる学校等の機能維持及び機能向上の検討・実施	○																			・教育委員会と連携。	
・白川への関心を高めるとともに、白川特有の水害リスクを認識し、地域住民の主体的な避難活動や、地域防災力向上に資する水防災教育や啓発活動の推進 ・緑川の過去の水害や治水の歴史・教訓を継承するとともに、緑川の水害リスクを認識し、地域住民の主体的な避難活動や、地域防災力向上に資する水防災教育や啓発活動の推進																					
2-①水害の歴史や文化の記憶を風化させないための学習機会や出前講座等の拡充																					
小中学校等と連携を図り、白川・緑川についての学習や出前講座等の実施・拡充	○																				・教育委員会等との協議
緑川の水害の歴史や文化への理解を深めるための啓発活動の実施・拡充	○																				・広報誌等での周知。
白川に対する愛着や理解を深めるための啓発活動の実施・拡充	○																				・水防災シンポジウム、川下り等で体験会
2-②洪水リスク・防災意識の啓発・教育																					
白川学習・水防災教育、川の安全な体験学習の「場」として白川地域防災センター(白川わくわくランド)の利活用の促進																					(継続的に実施)
教育委員会等と連携を図り、小中学校における白川や緑川についての学習・水防災教育等の実施	◎																				・教育委員会と検討
市民向けの白川・緑川についての学習・水防災教育(市民講座、地域防災リーダー講座等)の実施	○																				(継続的に実施)
住民団体・NPO等と連携した川の安全な体験活動の普及	○																				(継続的に実施)
防災ステーションを活用した水防災教育等の実施	○																				・住民団体等との川下り、カヌー教室等の実施
・水位が上昇しやすい熊本市街部において、地域住民や災害時要配慮者の迅速な避難行動、企業の的確な防災活動につながる、正確でわかりやすい防災情報の発信 ・特徴の異なる複数の河川が流れる緑川流域において、地域住民や災害時要配慮者の迅速な避難行動につながる、正確でわかりやすい防災情報の発信																					
3-①関係機関との確実な情報共有のための緊急連絡体制の確認・強化																					
水害対応タイムライン、水害対応チェックリストの活用等の推進	○																				(継続的に実施)
毎年、出水期前にホットラインの訓練等の実施	○																				(継続的に実施)
市町長だけでなく、副市町長、防災担当部長等とのホットラインの確立	○																				(継続的に実施)
3-②誰にでもわかりやすく、正確かつ迅速な情報提供の発信の強化																					
多様な情報提供媒体(SNS等)を活用した、幅広い年代の方が確実に情報を入手できる手段の検討・実施	○																				・随時検討、必要に応じ実施
携帯端末を活用したプッシュ型情報等の普及・周知	○																				(配信箇所は順次拡大予定)
地域の防災に関する情報の広報誌、ホームページ、大型ビジョン、庁舎掲示板、観光案内所等への掲載促進	○																				・登録制メール配信及び緊急速報メールを継続
関係機関が提供する防災情報を一元的に集約した情報ツールの検討・整備	◎																				・必要に応じ、広報誌等に掲載
報道機関を通じた避難情報等において確実な住民の行動を促すための情報提供の方法の検討・実施	○																				
3-③水防団等への連絡体制の再確認と伝達訓練の実施																					
毎年、出水期前に水防団等の関係機関との連絡体制の確認	○																				(継続的に実施)
毎年、出水期前に大規模な浸水の発生を前提とした演習の実施	○																				(継続的に実施)
出水時の河川巡視情報等の共有	○																				(継続的に実施)
関係機関が連携し、洪水氾濫時に斜かい経済・人命への被害を最小化するための施設の整備																					
3-④大雨時の危険性の判断や避難活動に役立つ看板の設置																					
過去の浸水実績を示した標識や危険性を訴える標識等の設置	○																				・浸水実績の表示については、地域との調整次第、順次設置を検討。
3-④住民へ確実に情報を伝えるための防災行政無線の調整・拡充																					
防災行政無線の情報伝達状況の検証及び新設・増設等の検討	○																				・平成18年度に整備済。 ・平成22年度に屋外子局を増設。これ以上の増設の計画はなし。
3-⑤迅速かつ的確な水防活動を支援するための水防資機材の備蓄計画の策定																					
備蓄している水防資機材等について現状を確認し、大規模氾濫時を想定した必要な資機材の量や備蓄計画の策定	○																				(継続的に実施)

【白川・緑川水防災意識社会再構築協議会】御船町・減災に係る取組工程表全体スケジュール		現時点												目標達成期限		平成30年6月22日時点						
作業項目		白川	緑川	29年度		30年度		31年度		32年度		33年度		備考								
幹事会 (○)				○	○	○	○															
協議会 (◎)					◎		◎								・赤字: 取組内容の中で特に留意が必要な項目							
ソフト対策	・白川の大規模氾濫に対し、関係機関が連携し、社会経済・人命への被害を最小化するための施設整備や緊急排水計画の策定及び、地域コミュニティの活性化による避難体制の構築																					
	・緑川の大規模氾濫に対し、関係機関が連携し、社会経済・人命への被害を最小化するための施設整備や緊急排水計画の策定及び、地域コミュニティの活性化による避難体制の構築と市町境を越えた広域避難体制の構築																					
	1-①避難勧告等の発令に着手した水害対応タイムラインの検証・見直しや水害対応タイムラインに基づく、訓練の実施																					
	実水害や水防避難訓練を踏まえた水害対応タイムラインの検証・見直し	○														(継続的に実施)						
	水害対応タイムラインに基づく、関係機関が連携した水防避難訓練等の実施	○														・関係機関との協議が必要。						
	防災担当職員の防災スキル向上に向けた研修や訓練の実施	○														・関係機関等と協議の上実施する。						
	1-②想定し得る最大規模の洪水を踏まえたハザードマップや水防避難マニュアル(仮)の改善・検討及び周知・徹底																・国・県等が実施する研修や訓練に参加する。					
	想定し得る最大規模の降雨による浸水想定区域図に対応したハザードマップの作成	◎															・平成30年度に作成済み。					
	(広域避難を考慮した)水防避難マニュアル(仮)の検討・作成	◎															・平成30年度に作成済み。					
	ハザードマップの普及・啓発																・平成30年度、全世帯配布済み。					
	地域版ハザードマップの普及・啓発																・平成30年度作成のハザードマップを参考に、普及・啓発をおこなう。					
	水防避難マニュアル(仮)の普及・啓発																・関係機関と協議しながら検討する。					
	想定し得る最大規模の降雨による浸水想定区域内での避難所の検討・指定	◎															・平成30年度作成済み。					
	1-③水防団(消防団)や住民団体等と連携した実効性の高い水防訓練の実施及び水防体制の強化																					
	水防団、自主防災組織、消防署等の関係機関が連携した水防訓練の実施	○															(継続的に実施)					
	自主防災組織、地域住民が参加する洪水に対するリスクが高い区間の共同点検の実施	○															・関係機関と協議し検討する。					
	水防団、河川管理者による水防資機材の情報共有	○															(継続的に実施)					
	水防団の人材不足の解消、水防協力団体の募集・指定の促進等の検討・実施	○															(継続的に実施)					
	1-④大規模出水時における緊急排水計画の策定及び緊急排水に向けた整備・訓練の実施																					
	排水施設の情報共有、排水手法等の検討	○																				
緊急排水計画の策定																						
大規模出水時を想定した緊急排水訓練の実施	○																					
1-⑤大規模災害を想定した広域的な連携体制の強化																						
自治体の防災担当者間の連携促進	○																・上益城地方災害対策会議及び上益城水防区連絡会等において情報を共有し連携を促進している。					
1-⑥まちづくりと一体となった水害リスクを低減させる出水前後の対策の検討																						
大規模出水時における緊急防災道路等の検討・認定																	・熊本地震に係る復興計画による避難路の整備に併せ、出水時避難路の検討を行う。					
早期の社会機能回復に向けた民間企業BCP計画検討の支援																	・企業向けのBCP研修会が必要と考える。					
地下街(地下空間)の避難確保計画の作成・避難訓練の実施・支援																	・L2による浸水想定について、地下街等施設管理者へ勉強会が必要と考える。					
要配慮者利用施設の避難確保計画の作成・避難訓練の実施・支援																	・地域防災計画に基づき、要配慮者の避難確保を検討し、計画を作成する。					
大規模氾濫時に防災拠点となる各市町庁舎の機能維持及び機能向上の検討・実施	○																・作成した計画を基に各施設において、避難訓練の実施を促す。					
避難拠点となる学校等の機能維持及び機能向上の検討・実施	○																・防災センター機能を持った施設を検討している。					
・白川への関心を高めるとともに、白川特有の水害リスクを認識し、地域住民の主体的な避難活動や、地域防災力向上に資する水防災教育や啓発活動の推進																	・各避難所に「避難所キット(必需品)」の配備を検討している。					
・緑川の過去の水害や治水の歴史・教訓を継承するとともに、緑川の水害リスクを認識し、地域住民の主体的な避難活動や、地域防災力向上に資する水防災教育や啓発活動の推進																						
2-①水害の歴史や文化の記憶を風化させないための学習機会や出前講座等の拡充																						
小中学校等と連携を図り、白川・緑川についての学習や出前講座等の実施・拡充	○																	・熊本河川国道事務所と連携を取りながら、出前講座の実施・拡充を図る。				
緑川の水害の歴史や文化への理解を深めるための啓発活動の実施・拡充	○																	・熊本河川国道事務所において、教材等を用意し、学校授業等で活用できる旨の周知を行う。				
白川に対する愛着や理解を深めるための啓発活動の実施・拡充	○																	・広報誌等での周知。				
2-②洪水リスク・防災意識の啓発・教育																		・水防災シンポジウム、川下り等で体験会				
白川学習・水防災教育、川の安全な体験学習の「場」として白川地域防災センター(白川わくわくランド)の利活用の促進																						
教育委員会等と連携を図り、小中学校における白川や緑川についての学習・水防災教育等の実施	◎																		・熊本河川国道事務所から県教育委員会へ働きかけがあると、町としても働きかけやすいし、スムーズに進むと考える。			
市民向けの白川・緑川についての学習・水防災教育(市民講座、地域防災リーダー講座等)の実施	○																		・町主催の講座等任意決定。			
住民団体・NPO等と連携した川の安全な体験活動の普及	○																		・他主催の講座等の開催があれば、自主防災組織へ案内をする。			
防災ステーションを活用した水防災教育等の実施	○																		・住民団体等との協議が必要			
・水位が上昇しやすい熊本市街部において、地域住民や災害時要配慮者の迅速な避難行動、企業の的確な防災活動につながる、正確でわかりやすい防災情報の発信																						
・特徴の異なる複数の河川が流れる緑川流域において、地域住民や災害時要配慮者の迅速な避難行動につながる、正確でわかりやすい防災情報の発信																						
3-①関係機関との確実な情報共有のための緊急連絡体制の確認・強化																						
水害対応タイムライン、水害対応チェックリストの活用等の推進	○																			・本町では未作成。		
毎年、出水期前にホットラインの訓練等の実施	○																			・作成に向け検討する。		
市町長だけでなく、副市町長、防災担当部長等とのホットラインの確立	○																			・ホットラインの連絡先を報告し、訓練済み。		
3-②誰にでもわかりやすく、正確かつ迅速な情報提供の発信の強化																						
多様な情報提供媒体(SNS等)を活用した、幅広い年代の方が確実に情報を入手できる手段の検討・実施	○																				・H31年度より防災行政無線運用開始予定。SNSや登録制メールの伝達手段も整備中。	
携帯端末を活用したプッシュ型情報等の普及・周知	○																				・緊急速報メールを利用	
地域の防災に関する情報の広報誌、ホームページ、大型ビジョン、庁舎掲示板、観光案内所等への掲載促進	○																				・広報紙への掲載を検討中。	
関係機関が提供する防災情報を一元的に集約した情報ツールの検討・整備	◎																				・熊本県統合型防災情報システムなどの周知。	
報道機関を通じた避難情報等において確実な住民の行動を促すための情報提供の方法の検討・実施	○																				・Lアラートを利用。	
3-③水防団等への連絡体制の再確認と伝達訓練の実施																						
毎年、出水期前に水防団等の関係機関との連絡体制の確認	○																				(継続的に実施)	
毎年、出水期前に大規模な浸水の発生を前提とした演習の実施	○																				(継続的に実施)	
出水時の河川巡視情報等の共有	○																				(継続的に実施)	
関係機関が連携し、洪水氾濫時に社会経済・人命への被害を最小化するための施設の整備																						
3-③大雨時の危険性の判断や避難活動に役立つ看板の設置																						
過去の浸水実績を示した標識や危険性を訴える標識等の設置	○																					設置可能な地域の抽出、設置計画と合わせてハザードマップの実施
3-④住民へ確実に情報を伝えるための防災行政無線の調整・拡充																						
防災行政無線の情報伝達状況の検証及び新設・増設等の検討	○																					・本町では防災行政無線を整備していないため、新設での整備を図る。
3-⑤迅速かつ的確な水防活動を支援するための水防資機材の備蓄計画の策定																						
備蓄している水防資機材等について現状を確認し、大規模氾濫時を想定した必要な資機材の量や備蓄計画の策定	○																					・現状の確認
																						・経費の整理・経路調査等を行う

【白川・緑川水防災意識社会再構築協議会】甲佐町・減災に係る取組工程表全体スケジュール		平成30年6月22日更新																	
作業項目		白川	緑川	8月	12月	4月	8月	12月	4月	8月	12月	4月	8月	12月	備考				
					29年度			30年度			31年度			32年度			33年度		
幹事会 (○)				○			○	○	○										
協議会 (◎)					◎														
	・白川の大規模氾濫に対し、関係機関が連携し、社会経済・人命への被害を最小化するための施設整備や緊急排水計画の策定及び、地域コミュニティの活性化による避難体制の構築 ・緑川の大規模氾濫に対し、関係機関が連携し、社会経済・人命への被害を最小化するための施設整備や緊急排水計画の策定及び、地域コミュニティの活性化による避難体制の構築と市町境を越えた広域避難体制の構築																		
	1-①避難勧告等の発令に着手した水害対応タイムラインの検証・見直しや水害対応タイムラインに基づく、訓練の実施																		
	実水害や水防避難訓練を踏まえた水害対応タイムラインの検証・見直し	○																	
	水害対応タイムラインに基づく、関係機関が連携した水防避難訓練等の実施	○																	
	防災担当職員の防災スキル向上に向けた研修や訓練の実施	○																	
	1-②想定し得る最大規模の洪水を踏まえたハザードマップや水防避難マニュアル（仮）の改善・検討及び周知・徹底																		
	想定し得る最大規模の降雨による浸水想定区域図に対応したハザードマップの作成 （広域避難を考慮した）水防避難マニュアル（仮）の検討・作成	◎																	
	ハザードマップの普及・啓発	◎																	
	地域版ハザードマップの普及・啓発																		
	水防避難マニュアル（仮）の普及・啓発																		
	想定し得る最大規模の降雨による浸水想定区域内での避難所の検討・指定	◎																	
	1-③水防団（消防団）や住民団体等と連携した実効性の高い水防訓練の実施及び水防体制の強化																		
	水防団、自主防災組織、消防署等の関係機関が連携した水防訓練の実施	○																	
	自主防災組織、地域住民が参加する洪水に対するリスクが高い区間の共同点検の実施	○																	
	水防団、河川管理者による水防資機材の情報共有	○																	
	水防団の人材不足の解消、水防協力団体の募集・指定の促進等の検討・実施	○																	
	1-④大規模出水時における緊急排水計画の策定及び緊急排水に向けた整備・訓練の実施																		
	排水施設の情報共有、排水手法等の検討	○																	
	緊急排水計画の策定																		
	大規模出水時を想定した緊急排水訓練の実施	○																	
	1-⑤大規模災害を想定した広域的な連携体制の強化																		
	自治体の防災担当者間の連携促進	○																	
	1-⑥まちづくりと一体となった水害リスクを低減させる出水前後の対策の検討																		
	大規模出水時における緊急防災道路等の検討・認定																		
	早期の社会機能回復に向けた民間企業BCP計画検討の支援																		
	地下街（地下空間）の避難確保計画の作成・避難訓練の実施・支援																		
	要配慮者利用施設の避難確保計画の作成・避難訓練の実施・支援																		
	大規模氾濫時に防災拠点となる各市町村庁舎の機能維持及び機能向上の検討・実施	○																	
	避難拠点となる学校等の機能維持及び機能向上の検討・実施	○																	
	・白川への関心を高めるとともに、白川特有の水害リスクを認識し、地域住民の主体的な避難活動や、地域防災力向上に資する水防災教育や啓発活動の推進 ・緑川の過去の水害や治水の歴史・教訓を継承するとともに、緑川の水害リスクを認識し、地域住民の主体的な避難活動や、地域防災力向上に資する水防災教育や啓発活動の推進																		
	2-①水害の歴史や文化の記憶を風化させないための学習機会や出前講座等の拡充																		
	小中学校等と連携を図り、白川・緑川についての学習や出前講座等の実施・拡充	○																	
	緑川の水害の歴史や文化への理解を深めるための啓発活動の実施・拡充	○																	
	白川に対する愛着や理解を深めるための啓発活動の実施・拡充																		
	2-②洪水リスク・防災意識の啓発・教育																		
	白川学習・水防災教育、川の安全な体験学習の「場」として白川地域防災センター（白川わくわくランド）の利活用の促進																		
	教育委員会等と連携を図り、小中学校における白川や緑川についての学習・水防災教育等の実施	◎																	
	市民向けの白川・緑川についての学習・水防災教育（市民講座、地域防災リーダー講座等）の実施	○																	
	住民団体・NPO等と連携した川の安全な体験活動の普及	○																	
	防災ステーションを活用した水防災教育等の実施	○																	
	・水位が上昇しやすい熊本市街部において、地域住民や災害時要配慮者の迅速な避難行動、企業の的確な防災活動につながる、正確でわかりやすい防災情報の発信 ・特徴の異なる複数の河川が流れる緑川流域において、地域住民や災害時要配慮者の迅速な避難行動につながる、正確でわかりやすい防災情報の発信																		
	3-①関係機関との確実な情報共有のための緊急連絡体制の確認・強化																		
	水害対応タイムライン、水害対応チェックリストの活用等の推進	○																	
	毎年、出水期前にホットラインの訓練等の実施	○																	
	市町長だけでなく、副市町長、防災担当部長等とのホットラインの確立	○																	
	3-②誰にでもわかりやすく、正確かつ迅速な情報提供の発信の強化																		
	多様な情報提供媒体（SNS等）を活用した、幅広い年代の方が確実に情報を入手できる手段の検討・実施	○																	
	携帯端末を活用したプッシュ型情報等の普及・周知	○																	
	地域の防災に関する情報の広報紙、ホームページ、大型ビジョン、庁舎掲示板、観光案内所等への掲載促進	○																	
	関係機関が提供する防災情報を一元的に集約した情報ツールの検討・整備	◎																	
	報道機関を通じた避難情報等において確実な住民の行動を促すための情報提供の方法の検討・実施	○																	
	3-③水防団等への連絡体制の再確認と伝達訓練の実施																		
	毎年、出水期前に水防団等の関係機関との連絡体制の確認	○																	
	毎年、出水期前に大規模な浸水等の発生を前提とした演習の実施	○																	
	出水時の河川巡視情報等の共有	○																	
	関係機関が連携し、洪水氾濫時に社会経済・人命への被害を最小化するための施設の整備																		
	3-③大雨時の危険性の判断や避難活動に役立つ看板の設置																		
	過去の浸水実績を示した標識や危険性を訴える標識等の設置	○																	
	3-④住民へ確実に情報を伝えるための防災行政無線の調整・拡充																		
	防災行政無線の情報伝達状況の検証及び新設・増設等の検討	○																	
	3-⑤迅速かつ的確な水防活動を支援するための水防資機材の備蓄計画の策定																		
	備蓄している水防資機材等について現状を確認し、大規模氾濫時を想定した必要な資機材の量や備蓄計画の策定	○																	

【白川・緑川水防災意識社会再構築協議会】美里町・減災に係る取組工程表全体スケジュール		現時点												目標達成期限		平成31年2月8日更新		
作業項目		白川	緑川	29年度		30年度		31年度		32年度		33年度		備考				
幹事会 (○)				○	○	○	○	○	○									
協議会 (◎)					◎			◎							・赤字: 取組内容の中で特に留意が必要な項目			
ソフト対策	・白川の大規模氾濫に対し、関係機関が連携し、社会経済・人命への被害を最小化するための施設整備や緊急排水計画の策定及び、地域コミュニティの活性化による避難体制の構築 ・緑川の大規模氾濫に対し、関係機関が連携し、社会経済・人命への被害を最小化するための施設整備や緊急排水計画の策定及び、地域コミュニティの活性化による避難体制の構築と市町境を越えた広域避難体制の構築																	
	1-①避難勧告等の発令に着目した水害対応タイムラインの検証・見直しや水害対応タイムラインに基づく、訓練の実施																	
	実水害や水防避難訓練を踏まえた水害対応タイムラインの検証・見直し		○												(継続的に実施)	・庁内協議の後、関係機関との協議が必要。		
	水害対応タイムラインに基づく、関係機関が連携した水防避難訓練等の実施		○												(継続的に実施)	・今後検討し、実施していく。		
	防災担当職員の防災スキル向上に向けた研修や訓練の実施		○												(継続的に実施)	・研修会へ向けた関係機関との調整と資料提供を要望。		
	1-②想定し得る最大規模の洪水を踏まえたハザードマップや水防避難マニュアル(仮)の改善・検討及び周知・徹底																	
	想定し得る最大規模の降雨による浸水想定区域図に対応したハザードマップの作成 (広域避難を考慮した)水防避難マニュアル(仮)の検討・作成		◎														・土砂災害警戒区域設定、ため池決壊想定地図等と一緒に表示したハザードマップの作成完了	
	ハザードマップの普及・啓発		◎														・関係機関との調整が必要である。	
	地域版ハザードマップの普及・啓発																・ハザードマップの全戸配布完了	
	水防避難マニュアル(仮)の普及・啓発																・各地区の自主防災組織等との連携が必要になる。自主防災組織の研修会を行った。	
	想定し得る最大規模の降雨による浸水想定区域内での避難所の検討・指定		◎														・今後検討する。	
	1-③水防団(消防団)や住民団体等と連携した実効性の高い水防訓練の実施及び水防体制の強化																	
	水防団、自主防災組織、消防署等の関係機関が連携した水防訓練の実施		○														・熊本県防災訓練と併せて自主防災組織と町との連絡訓練を行った。	
	自主防災組織、地域住民が参加する洪水に対するリスクが高い区間の共同点検の実施		○														・現在実施している区との共同点検に参加検討	
	水防団、河川管理者による水防資機材の情報共有		○														・H30年度備蓄倉庫整備後、検討していく。	
	水防団の人材不足の解消、水防協力団体の募集・指定の促進等の検討・実施		○														・水防団は消防団員が兼ねているが、消防団員の減少が急速である。	
	1-④大規模出水時における緊急排水計画の策定及び緊急排水に向けた整備・訓練の実施																	
	排水施設の情報共有、排水手法等の検討		○														・担当の建設課と地区と協議のうえ、検討する。	
	緊急排水計画の策定																・担当の建設課と地区と協議のうえ、検討する。	
	大規模出水時を想定した緊急排水訓練の実施		○															
1-⑤大規模災害を想定した広域的な連携体制の強化																		
自治体の防災担当者間の連携促進		○																
1-⑥まちづくりと一体となった水害リスクを低減させる出水前後の対策の検討																		
大規模出水時における緊急防災道路等の検討・認定																	・整備に関する検討は必要だが、予算的ことが課題となる。	
早期の社会機能回復に向けた民間企業BCP計画検討の支援																		
地下街(地下空間)の避難確保計画の作成・避難訓練の実施・支援																		
要配慮者利用施設の避難確保計画の作成・避難訓練の実施・支援																		
大規模氾濫時に防災拠点となる各市町村庁舎の機能維持及び機能向上の検討・実施		○															・関係課と協議し、実施する。	
避難拠点となる学校等の機能維持及び機能向上の検討・実施		○															・但し、浸水想定区域に該当する施設はない。 ・但し、浸水想定区域に該当する施設はない。	
・白川への関心を高めるとともに、白川特有の水害リスクを認識し、地域住民の主体的な避難活動や、地域防災力向上に資する水防教育や啓発活動の推進 ・緑川の過去の水害や治水の歴史・教訓を継承するとともに、緑川の水害リスクを認識し、地域住民の主体的な避難活動や、地域防災力向上に資する水防教育や啓発活動の推進																		
2-①水害の歴史や文化の記憶を風化させないための学習機会や出前講座等の拡充																		
小中学校等と連携を図り、白川・緑川についての学習や出前講座等の実施・拡充		○															・連携は可能と考えられるが、講師の人財が課題となる。	
緑川の水害の歴史や文化への理解を深めるための啓発活動の実施・拡充		○															・実施可能であるが、活動の内容を検討する必要がある。	
白川に対する愛着や理解を深めるための啓発活動の実施・拡充																		
2-②洪水リスク・防災意識の啓発・教育																		
白川学習・水防教育、川の安全な体験学習の「場」として白川地域防災センター(白川わくわくランド)の利活用の促進																		
教育委員会等と連携を図り、小中学校における白川や緑川についての学習・水防教育等の実施		◎															・実施可能であるが、先生の対応、方法等を検討する必要がある。町内校長会において、国土交通省からの説明を実施	
市民向けの白川・緑川についての学習・水防教育(市民講座、地域防災リーダー講座等)の実施		○															・講師等の人財が課題となる。	
住民団体・NPO等と連携した川の安全な体験活動の普及		○															・関係機関と協議する必要がある。	
防災ステーションを活用した水防教育等の実施		○															・防災ステーション設置の必要性検討	
・水位が上昇しやすい熊本市街部において、地域住民や災害時要配慮者の迅速な避難行動、企業の的確な防災活動につながる、正確でわかりやすい防災情報の発信 ・特徴の異なる複数の河川が流れる緑川流域において、地域住民や災害時要配慮者の迅速な避難行動につながる、正確でわかりやすい防災情報の発信																		
3-①関係機関との確実な情報共有のための緊急連絡体制の確認・強化																		
水害対応タイムライン、水害対応チェックリストの活用等の推進		○																
毎年、出水期前にホットラインの訓練等の実施		○																
市町長だけでなく、副市町長、防災担当部長等とのホットラインの確立		○																
3-②誰にでもわかりやすく、正確かつ迅速な情報提供の発信の強化																		
多様な情報提供媒体(SNS等)を活用した、幅広い年代の方々が確実に情報を入手できる手段の検討・実施		○																・H30年度に検討委員会設置予定
携帯端末を活用したプッシュ型情報等の普及・周知		○																・H30年度に検討委員会設置予定
地域の防災に関する情報の広報紙、ホームページ、大型ビジョン、庁舎掲示板、観光案内所等への掲載促進		○																・H30年度に検討委員会設置予定
関係機関が提供する防災情報を一元的に集約した情報ツールの検討・整備		◎																・H30年度に検討委員会設置予定
報道機関を通じた避難情報等において確実な住民の行動を促すための情報提供の方法の検討・実施		○																・H30年度に検討委員会設置予定
3-③水防団等への連絡体制の再確認と伝達訓練の実施																		
毎年、出水期前に水防団等の関係機関との連絡体制の確認		○																・関係機関と連携し、毎年、実施している。(緑川水防演習)
毎年、出水期前に大規模な浸水の発生を前提とした演習の実施		○																・関係機関と連携し、毎年、実施している。(緑川水防演習)
出水時の河川巡視情報等の共有		○																・水防団(消防団)と連携している。
関係機関が連携し、洪水氾濫時に社会経済・人命への被害を最小化するための施設の整備																		
3-③大雨時の危険性の判断や避難活動に役立つ看板の設置																		
過去の浸水実績を示した標識や危険性を訴える標識等の設置		○																・予算的な問題もあるので、今後検討し、設置したい。
3-④住民へ確実に情報を伝えるための防災行政無線の調整・拡充																		
防災行政無線の情報伝達状況の検証及び新設・増設等の検討		○																・防災行政無線については、戸別受信機も含めて、整備が終了しているが、整備が終わって約10年が経過しようとしている為、再整備の検討が必要となる。
3-⑤迅速かつ確実な水防活動を支援するための水防資機材の備蓄計画の策定																		
備蓄している水防資機材等について現状を確認し、大規模氾濫時を想定した必要な資機材の量や備蓄計画の策定		○																(継続的に実施)

【白川・緑川水防災意識社会再構築協議会】熊本県・減災に係る取組工程表全体スケジュール		平成30年11月26日更新														
作業項目		白川	緑川	8月	12月	4月	8月	12月	4月	8月	12月	4月	8月	12月	備考	
		29年度			30年度			31年度			32年度			33年度		
幹事会 (○)				○			○	○	○							
協議会 (◎)					◎			◎							・赤字: 取組内容の中で特に留意が必要な項目	
ソフト対策	・白川の大規模氾濫に対し、関係機関が連携し、社会経済・人命への被害を最小化するための施設整備や緊急排水計画の策定及び、地域コミュニティの活性化による避難体制の構築															
	・緑川の大規模氾濫に対し、関係機関が連携し、社会経済・人命への被害を最小化するための施設整備や緊急排水計画の策定及び、地域コミュニティの活性化による避難体制の構築と市町境を越えた広域避難体制の構築															
	1-①避難勧告等の発令に着手した水害対応タイムラインの検証・見直しや水害対応タイムラインに基づく、訓練の実施															
	実水害や水防避難訓練を踏まえた水害対応タイムラインの検証・見直し	○	○												関係機関との調整	
	水害対応タイムラインに基づく、関係機関が連携した水防避難訓練等の実施	○	○												関係機関との調整・情報共有	
	防災担当職員の防災スキル向上に向けた研修や訓練の実施	○	○												既存研修会を含めて実施への検討 既存研修会を含めて実施への試行 既存研修会を含めて実施	
	1-②想定し得る最大規模の洪水を踏まえたハザードマップや水防避難マニュアル（仮）の改善・検討及び周知・徹底															
	想定し得る最大規模の降雨による浸水想定区域図に対応したハザードマップの作成 （広域避難を考慮した）水防避難マニュアル（仮）の検討・作成	◎														関係機関との調整・情報提供
	ハザードマップの普及・啓発	○	○													
	地域版ハザードマップの普及・啓発	○	○													
	水防避難マニュアル（仮）の普及・啓発	○	○													
	想定し得る最大規模の降雨による浸水想定区域内での避難所の検討・指定															
	1-③水防団（消防団）や住民団体等と連携した実効性の高い水防訓練の実施及び水防体制の強化															
	水防団、自主防災組織、消防署等の関係機関が連携した水防訓練の実施	○	○													（継続的に実施）
	自主防災組織、地域住民が参加する洪水に対するリスクが高い区間の共同点検の実施	○	○													（継続的に実施）
	水防団、河川管理者による水防資機材の情報共有	○	○													（継続的に実施）
	水防団の人材不足の解消、水防協力団体の募集・指定の促進等の検討・実施															
	1-④大規模出水時における緊急排水計画の策定及び緊急排水に向けた整備・訓練の実施															
	排水施設の情報共有、排水手法等の検討	○	○													関係機関との調整・情報収集
	緊急排水計画の策定	○	○													関係機関との調整・情報収集
大規模出水時を想定した緊急排水訓練の実施	○	○													関係機関との調整・情報収集	
1-⑤大規模災害を想定した広域的な連携体制の強化																
自治体の防災担当者間の連携促進	○														（継続的に実施）	
1-⑥まちづくりと一体となった水害リスクを低減させる出水前後の対策の検討																
大規模出水時における緊急防災道路等の検討・認定															関係機関との調整・情報共有	
早期の社会機能回復に向けた民間企業BCP計画検討の支援																
地下街（地下空間）の避難確保計画の作成・避難訓練の実施・支援																
要配慮者利用施設の避難確保計画の作成・避難訓練の実施・支援																
大規模氾濫時に防災拠点となる各市町村庁舎の機能維持及び機能向上の検討・実施																
避難拠点となる学校等の機能維持及び機能向上の検討・実施																
・白川への関心を高めるとともに、白川特有の水害リスクを認識し、地域住民の主体的な避難活動や、地域防災力向上に資する水防災教育や啓発活動の推進																
・緑川の過去の水害や治水の歴史・教訓を継承するとともに、緑川の水害リスクを認識し、地域住民の主体的な避難活動や、地域防災力向上に資する水防災教育や啓発活動の推進																
2-①水害の歴史や文化の記憶を風化させないための学習機会や出前講座等の拡充																
小中学校等と連携を図り、白川・緑川についての学習や出前講座等の実施・拡充																
緑川の水害の歴史や文化への理解を深めるための啓発活動の実施・拡充																
白川に対する愛着や理解を深めるための啓発活動の実施・拡充																
2-②洪水リスク・防災意識の啓発・教育																
白川学習・水防災教育、川の安全な体験学習の「場」として白川地域防災センター（白川わくわくランド）の利活用の促進																
教育委員会等と連携を図り、小中学校における白川や緑川についての学習・水防災教育等の実施																
市民向けの白川・緑川についての学習・水防災教育（市民講座、地域防災リーダー講座等）の実施																
住民団体・NPO等と連携した川の安全な体験活動の普及																
防災ステーションを活用した水防災教育等の実施																
・水位が上昇しやすい熊本市街部において、地域住民や災害時要配慮者の迅速な避難行動、企業の的確な防災活動につながる、正確でわかりやすい防災情報の発信																
・特徴の異なる複数の河川が流れる緑川流域において、地域住民や災害時要配慮者の迅速な避難行動につながる、正確でわかりやすい防災情報の発信																
3-①関係機関との確実な情報共有のための緊急連絡体制の確認・強化																
水害対応タイムライン、水害対応チェックリストの活用等の推進																
毎年、出水期前にホットラインの訓練等の実施																
市町長だけでなく、副市町長、防災担当課長等とのホットラインの確立																
3-②誰にでもわかりやすく、正確かつ迅速な情報提供の発信の強化																
多様な情報提供媒体（SNS等）を活用した、幅広い年代の方が確実に情報を入手できる手段の検討・実施	○	○													併せて必要に応じ関係機関との調整・方法の検証	
携帯端末を活用したプッシュ型情報等の普及・周知	○	○													併せて必要に応じ関係機関との調整・方法の検証	
地域の防災に関する情報の広報紙、ホームページ、大型ビジョン、庁舎掲示板、観光案内所等への掲載促進	○	○													併せて必要に応じ関係機関との調整・方法の検証	
関係機関が提供する防災情報を一元的に集約した情報ツールの検討・整備	◎	◎													関係機関との防災情報共有するシステムの検討 構築 運用開始	
報道機関を通じた避難情報等において確実な住民の行動を促すための情報提供の方法の検討・実施	○	○													併せて必要に応じ関係機関との調整・方法の検証	
3-③水防団等への連絡体制の再確認と伝達訓練の実施																
毎年、出水期前に水防団等の関係機関との連絡体制の確認	○	○													関係機関と確認	
毎年、出水期前に大規模な浸水の発生を前提とした演習の実施															（継続的に実施）	
出水時の河川巡視情報等の共有	○	○													関係機関との情報共有	
関係機関が連携し、洪水氾濫時に社会経済・人命への被害を最小化するための施設の整備																
3-③大雨時の危険性の判断や避難活動に役立つ看板の設置																
過去の浸水実績を示した標識や危険性を訴える標識等の設置																
3-④住民へ確実に情報を伝えるための防災行政無線の調整・拡充																
防災行政無線の情報伝達状況の検証及び新設・増設等の検討																
3-⑤迅速かつ的確な水防活動を支援するための水防資機材の備蓄計画の策定																
備蓄している水防資機材等について現状を確認し、大規模氾濫時を想定した必要な資機材の量や備蓄計画の策定																
ハード対策																

【白川・緑川水防災意識社会再構築協議会】九州地方整備局・減災に係る取組工程表全体スケジュール		平成30年6月22日更新																	
作業項目		白川	緑川	8月	12月	4月	8月	12月	4月	8月	12月	4月	8月	12月	備考				
					29年度			30年度			31年度			32年度			33年度		
幹事会 (○)				○			○	○	○										
協議会 (◎)					◎				◎										
	・白川の大規模氾濫に対し、関係機関が連携し、社会経済・人命への被害を最小化するための施設整備や緊急排水計画の策定及び、地域コミュニティの活性化による避難体制の構築 ・緑川の大規模氾濫に対し、関係機関が連携し、社会経済・人命への被害を最小化するための施設整備や緊急排水計画の策定及び、地域コミュニティの活性化による避難体制の構築と市町境を越えた広域避難体制の構築																		
	1-①避難勧告等の発令に着手した水害対応タイムラインの検証・見直しや水害対応タイムラインに基づく、訓練の実施																		
	実水害や水防避難訓練を踏まえた水害対応タイムラインの検証・見直し	○	○																
	水害対応タイムラインに基づく、関係機関が連携した水防避難訓練等の実施	○	○																
	防災担当職員の防災スキル向上に向けた研修や訓練の実施	○	○																
	1-②想定し得る最大規模の洪水を踏まえたハザードマップや水防避難マニュアル（仮）の改善・検討及び周知・徹底																		
	想定し得る最大規模の降雨による浸水想定区域図に対応したハザードマップの作成 （広域避難を考慮した）水防避難マニュアル（仮）の検討・作成	◎	◎																
	ハザードマップの普及・啓発	○	○																
	地域版ハザードマップの普及・啓発	○	○																
	水防避難マニュアル（仮）の普及・啓発	○	○																
	想定し得る最大規模の降雨による浸水想定区域内での避難所の検討・指定																		
	1-③水防団（消防団）や住民団体等と連携した実効性の高い水防訓練の実施及び水防体制の強化																		
	水防団、自主防災組織、消防署等の関係機関が連携した水防訓練の実施	○	○																
	自主防災組織、地域住民が参加する洪水に対するリスクが高い区間の共同点検の実施	○	○																
	水防団、河川管理者による水防資機材の情報共有	○	○																
	水防団の人材不足の解消、水防協力団体の募集・指定の促進等の検討・実施																		
	1-④大規模出水時における緊急排水計画の策定及び緊急排水に向けた整備・訓練の実施																		
	排水施設の情報共有、排水手法等の検討	○	○																
	緊急排水計画の策定	○	○																
	大規模出水時を想定した緊急排水訓練の実施	○	○																
	1-⑤大規模災害を想定した広域的な連携体制の強化																		
	自治体の防災担当者間の連携促進	○																	
	1-⑥まちづくりと一体となった水害リスクを低減させる出水前後の対策の検討																		
	大規模出水時における緊急防災道路等の検討・認定																		
	早期の社会機能回復に向けた民間企業BCP計画検討の支援																		
	地下街（地下空間）の避難確保計画の作成・避難訓練の実施・支援																		
	要配慮者利用施設の避難確保計画の作成・避難訓練の実施・支援																		
	大規模氾濫時に防災拠点となる各市町村庁舎の機能維持及び機能向上の検討・実施	○	○																
	避難拠点となる学校等の機能維持及び機能向上の検討・実施	○	○																
	・白川への関心を高めるとともに、白川特有の水害リスクを認識し、地域住民の主体的な避難活動や、地域防災力向上に資する水防教育や啓発活動の推進 ・緑川の過去の水害や治水の歴史・教訓を継承するとともに、緑川の水害リスクを認識し、地域住民の主体的な避難行動や、地域防災力向上に資する水防教育や啓発活動の推進																		
	2-①水害の歴史や文化の記憶を風化させないための学習機会や出前講座等の拡充																		
	小中学校等と連携を図り、白川・緑川についての学習や出前講座等の実施・拡充	○	○																
	緑川の水害の歴史や文化への理解を深めるための啓発活動の実施・拡充	○	○																
	白川に対する愛着や理解を深めるための啓発活動の実施・拡充	○	○																
	2-②洪水リスク・防災意識の啓発・教育																		
	白川学習・水防教育、川の安全な体験学習の「場」として白川地域防災センター（白川わくわくランド）の利活用の促進	○	○																
	教育委員会等と連携を図り、小中学校における白川や緑川についての学習・水防教育等の実施	◎	◎																
	市民向けの白川・緑川についての学習・水防教育（市民講座、地域防災リーダー講座等）の実施	○	○																
	住民団体・NPO等と連携した川の安全な体験活動の普及	○	○																
	防災ステーションを活用した水防教育等の実施	○	○																
	・水位が上昇しやすい熊本市街部において、地域住民や災害時要配慮者の迅速な避難行動、企業の的確な防災活動につながる、正確でわかりやすい防災情報の発信 ・特徴の異なる複数の河川が流れる緑川流域において、地域住民や災害時要配慮者の迅速な避難行動につながる、正確でわかりやすい防災情報の発信																		
	3-①関係機関との確実な情報共有のための緊急連絡体制の確認・強化																		
	水害対応タイムライン、水害対応チェックリストの活用等の推進	○	○																
	毎年、出水期前にホットラインの訓練等の実施	○	○																
	市町長だけでなく、副市町長、防災担当課長等とのホットラインの確立	○	○																
	3-②誰にでもわかりやすく、正確かつ迅速な情報提供の発信の強化																		
	多様な情報提供媒体（SNS等）を活用した、幅広い年代の方が確実に情報を入手できる手段の検討・実施	○	○																
	携帯端末を活用したプッシュ型情報等の普及・周知	○	○																
	地域の防災に関する情報の広報紙、ホームページ、大型ビジョン、庁舎掲示板、観光案内所等への掲載促進	○	○																
	関係機関が提供する防災情報を一元的に集約した情報ツールの検討・整備	◎	◎																
	報道機関を通じた避難情報等において確実な住民の行動を促すための情報提供の方法の検討・実施	○	○																
	3-③水防団等への連絡体制の再確認と伝達訓練の実施																		
	毎年、出水期前に水防団等の関係機関との連絡体制の確認	○	○																
	毎年、出水期前に大規模な浸水の発生を前提とした演習の実施	○	○																
	出水時の河川巡視情報等の共有	○	○																
	関係機関が連携し、洪水氾濫時に社会経済・人命への被害を最小化するための施設の整備																		
	3-③大雨時の危険性の判断や避難活動に役立つ看板の設置																		
	過去の浸水実績を示した標識や危険性を訴える標識等の設置	○	○																
	3-④住民へ確実に情報を伝えるための防災行政無線の調整・拡充																		
	防災行政無線の情報伝達状況の検証及び新設・増設等の検討																		
	3-⑤迅速かつ的確な水防活動を支援するための水防資機材の備蓄計画の策定																		
	備蓄している水防資機材等について現状を確認し、大規模氾濫時を想定した必要な資機材の量や備蓄計画の策定	○	○																

【白川・緑川水防災意識社会再構築協議会】熊本地方気象台・減災に係る取組工程表全体スケジュール		現時点												平成31年2月8日更新						
作業項目		白川	緑川	8月	12月	4月	8月	12月	4月	8月	12月	4月	8月	12月	33年度	備考				
		29年度			30年度			31年度			32年度			33年度						
幹事会 (○)				○			○	○	○											
協議会 (◎)					◎				◎							・赤字: 取組内容の中で特に留意が必要な項目				
ソフト対策	・白川の大規模氾濫に対し、関係機関が連携し、社会経済・人命への被害を最小化するための施設整備や緊急排水計画の策定及び、地域コミュニティの活性化による避難体制の構築																			
	・緑川の大規模氾濫に対し、関係機関が連携し、社会経済・人命への被害を最小化するための施設整備や緊急排水計画の策定及び、地域コミュニティの活性化による避難体制の構築と市町境を越えた広域避難体制の構築																			
	1-①避難勧告等の発令に着目した水害対応タイムラインの検証・見直しや水害対応タイムラインに基づく、訓練の実施																			
	実水害や水防避難訓練を踏まえた水害対応タイムラインの検証・見直し	○	○														検証・見直しに係る協力			
	水害対応タイムラインに基づく、関係機関が連携した水防避難訓練等の実施	○	○														防災気象情報の組み入れ等、訓練シナリオの作成に係る協力可能な範囲で訓練に参加			
	防災担当職員の防災スキル向上に向けた研修や訓練の実施	○	○														関係機関からの要請に基づき実施			
	1-②想定し得る最大規模の洪水を踏まえたハザードマップや水防避難マニュアル（仮）の改善・検討及び周知・徹底																			
	想定し得る最大規模の降雨による浸水想定区域図に対応したハザードマップの作成 （広域避難を考慮した）水防避難マニュアル（仮）の検討・作成																			
	ハザードマップの普及・啓発																			
	地域版ハザードマップの普及・啓発																			
	水防避難マニュアル（仮）の普及・啓発																			
	想定し得る最大規模の降雨による浸水想定区域内での避難所の検討・指定																			
	1-③水防団（消防団）や住民団体等と連携した実効性の高い水防訓練の実施及び水防体制の強化																			
	水防団、自主防災組織、消防署等の関係機関が連携した水防訓練の実施	○	○															可能な範囲で参加		
	自主防災組織、地域住民が参加する洪水に対しリスクが高い区間の共同点検の実施																	（継続的に実施）		
	水防団、河川管理者による水防資機材の情報共有																			
	水防団の人材不足の解消、水防協力団体の募集・指定の促進等の検討・実施																			
	1-④大規模出水時における緊急排水計画の策定及び緊急排水に向けた整備・訓練の実施																			
	排水施設の情報共有、排水手法等の検討																			
	緊急排水計画の策定																			
大規模出水時を想定した緊急排水訓練の実施	○	○																訓練参加依頼に基づき可能な範囲で参加		
1-⑤大規模災害を想定した広域的な連携体制の強化																				
自治体の防災担当者間の連携促進																				
1-⑥まちづくりと一体となった水害リスクを低減させる出水前後の対策の検討																				
大規模出水時における緊急防災道路等の検討・認定																				
早期の社会機能回復に向けた民間企業BCP計画検討の支援																				
地下街（地下空間）の避難確保計画の作成・避難訓練の実施・支援																				
要配慮者利用施設の避難確保計画の作成・避難訓練の実施・支援																				
大規模氾濫時に防災拠点となる各市町村庁舎の機能維持及び機能向上の検討・実施																				
避難拠点となる学校等の機能維持及び機能向上の検討・実施																				
・白川への関心を高めるとともに、白川特有の水害リスクを認識し、地域住民の主体的な避難活動や、地域防災力向上に資する水防災教育や啓発活動の推進																				
・緑川の過去の水害や治水の歴史・教訓を継承するとともに、緑川の水害リスクを認識し、地域住民の主体的な避難活動や、地域防災力向上に資する水防災教育や啓発活動の推進																				
2-①水害の歴史や文化の記憶を風化させないための学習機会や出前講座等の拡充																				
小中学校等と連携を図り、白川・緑川についての学習や出前講座等の実施・拡充	○	○																・依頼により出前講座等実施している		
緑川の水害の歴史や文化への理解を深めるための啓発活動の実施・拡充		○																・水害の歴史に関連する気象資料の提供等の協力		
白川に対する愛着や理解を深めるための啓発活動の実施・拡充	○																	・水害の歴史に関連する気象資料の提供等の協力		
2-②洪水リスク・防災意識の啓発・教育																				
白川学習・水防災教育、川の安全な体験学習の「場」として白川地域防災センター（白川わくわくランド）の利活用の促進																				
教育委員会等と連携を図り、小中学校における白川や緑川についての学習・水防災教育等の実施																				
市民向けの白川・緑川についての学習・水防災教育（市民講座、地域防災リーダー講座等）の実施	○	○																	・地域防災リーダー養成研修（気象の講義を担当）等において水防災に関連する内容を拡充	
住民団体・NPO等と連携した川の安全な体験活動の普及																				
防災ステーションを活用した水防災教育等の実施																				
・水位が上昇しやすい熊本市街部において、地域住民や災害時要配慮者の迅速な避難行動、企業の的確な防災活動につながる、正確でわかりやすい防災情報の発信																				
・特徴の異なる複数の河川が流れる緑川流域において、地域住民や災害時要配慮者の迅速な避難行動につながる、正確でわかりやすい防災情報の発信																				
3-①関係機関との確実な情報共有のための緊急連絡体制の確認・強化																				
水害対応タイムライン、水害対応チェックリストの活用等の推進	○	○																	検証・見直しに係る協力	
毎年、出水期前にホットラインの訓練等の実施	○	○																	洪水予報個別の講習を実施	
市町長だけでなく、副市町長、防災担当部長等とのホットラインの確立	○	○																	継続実施	
3-②誰にでもわかりやすく、正確かつ迅速な情報提供の発信の強化																				
多様な情報提供媒体（SNS等）を活用した、幅広い年代の方が確実に情報を入手できる手段の検討・実施																				
携帯端末を活用したプッシュ型情報等の普及・周知																				
地域の防災に関する情報の広報紙、ホームページ、大型ビジョン、庁舎掲示板、観光案内所等への掲載促進	○	○																		ホームページ掲載、合同庁舎1階に設置した大型ディスプレイで気象情報を掲示
関係機関が提供する防災情報を一元的に集約した情報ツールの検討・整備	◎	◎																		随時協力
報道機関を通じた避難情報等において確実な住民の行動を促すための情報提供の方法の検討・実施	○	○																		報道機関を対象とした勉強会等を実施
3-③水防団等への連絡体制の再確認と伝達訓練の実施																				
毎年、出水期前に水防団等の関係機関との連絡体制の確認	○	○																		毎年、出水期前に実施
毎年、出水期前に大規模な浸水の発生を前提とした演習の実施	○	○																		防災気象情報の組み入れ等、演習シナリオの作成に係る協力
出水時の河川巡視情報等の共有																				（継続的に実施）
関係機関が連携し、洪水氾濫時に社会経済・人命への被害を最小化するための施設の整備																				
3-③大雨時の危険性の判断や避難活動に役立つ看板の設置																				
過去の浸水実績を示した標識や危険性を訴える標識等の設置																				
3-④住民へ確実に情報を伝えるための防災行政無線の調整・拡充																				
防災行政無線の情報伝達状況の検証及び新設・増設等の検討																				
3-⑤迅速かつ的確な水防活動を支援するための水防資機材の備蓄計画の策定																				
備蓄している水防資機材等について現状を確認し、大規模氾濫時を想定した必要な資機材の量や備蓄計画の策定																				